

平成29年11月1日

お知らせ

資料提供先:島根県政記者会、広島県政記者クラブ 合同庁舎記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス

道の駅「赤来高原」を拠点とした自動運転サービス 実証実験をスタート

国土交通省では、高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保のため、「道 の駅」等を拠点とした自動運転サービスの2020年までの社会実装を目指し、今年秋頃 より順次、全国13箇所で実証実験を行う予定です。

今回、道の駅「赤来高原」での実証実験を11月11日(土)から11月17日(金)ま で行います。

また、実証実験の開始に合わせて、11月11日(土)に実験開始式を以下のとおり行 いますので、お知らせいたします。概要は添付資料をご覧ください。

なお、実証実験期間中(事前の準備期間を含む)、道の駅「赤来高原」の周辺道路の -部が交通規制されますので、ご注意ください。

【実験開始式】

平成29年11月11日(土) 11時00分から 1. 日 時

2. 会 場 道の駅「赤来高原」

(島根県飯石郡飯南町下赤名880番地3)(雨天決行)

3. 主 催 道の駅「赤来高原」を拠点とした

自動運転サービス地域実験協議会

4. 概 要 : 挨拶、実験概要説明、実験車両説明

テープカット、実験車両試乗等

- ※報道機関の方で、実証実験期間中の取材・実験車両への試乗をご希望の方は、11月9日(木) 17時までに下記問い合わせ先までご連絡ください。
- ※道の駅「赤来高原」を拠点とした自動運転サービス地域実験協議会HP http://www.cgr.mlit.go.jp/matsukoku/jidouunntennHP.pdf
- ※本実験は、戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)のプロジェクトの1つとして実施す るものです。

問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 松江国道事務所 TEL(0852)26-2131(代表)

溝田 亨(みぞた とおる) 副所長(管理) (内205)

岩山 学(いわやま まなぶ) 【開始式担当】 総務課長 (内211) 【実証実験担当】 計画課長 高﨑 修(たかざき おさむ) (内261)

国土交通省 中国地方整備局 道路部 交通対策課 TEL(082)221-9231(代表)

後藤 英夫(ごとう ひでお) 交通対策課長 (内4511) 景山 浩孝(かげやま ひろたか) (内4517) 建設専門官

(広報担当窓口)

国土交通省 中国地方整備局 広報広聴対策官 坂屋 政之 (内2117)

企画部 環境調整官 足立 司 (内3114)

TEL (082) 221-9231

実験開始式の概要

〇日 時 : 平成29年11月11日(土)11時00分から

〇場 所 : 道の駅「赤来高原」

(島根県飯石郡飯南町下赤名880番地3)(雨天決行)

〇概 要

受付開始 10時30分から 式典開始 11時00分から

- (1)開催地挨拶
- (2)来賓挨拶
- (3)実験概要説明
- (4)実験車両説明
- (5)記念撮影、テープカット
- (6)実験車両試乗

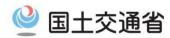
式典終了 12時00分頃

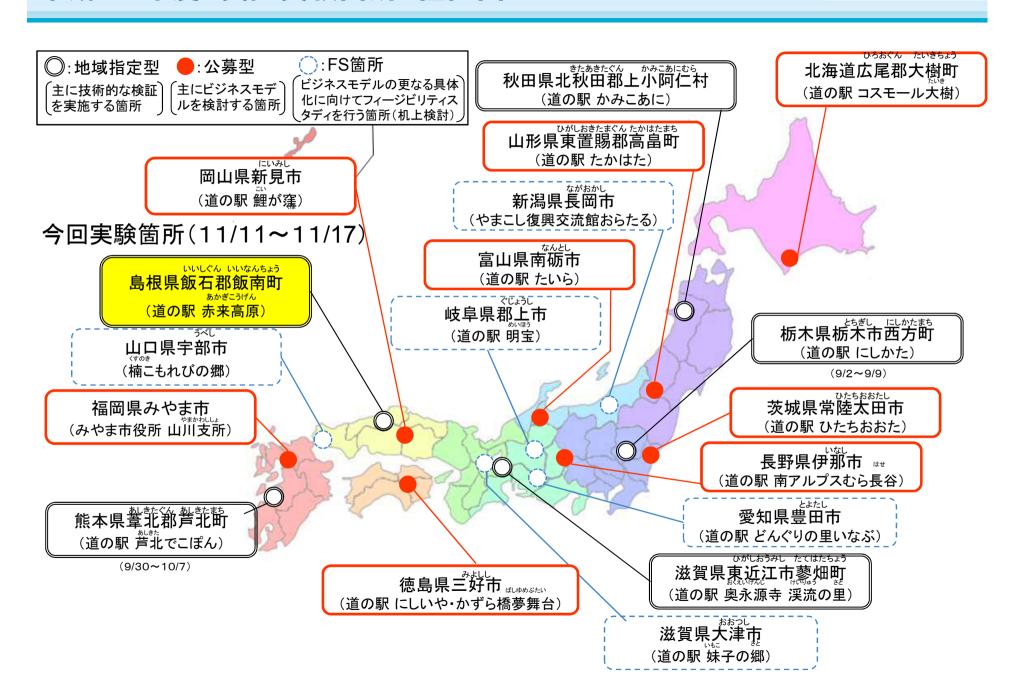
- ※式典終了後、報道機関の方々や関係者が実験車両に試乗。
- ※<u>報道機関の方で取材・実験車両への試乗をご希望の方は、11月9日(木)</u> 17時までに中国地方整備局 松江国道事務所(TEL0852-26-2131担当: 岩山、高崎)までご連絡ください。

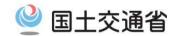


会場案内図(道の駅横に駐車場あり)

平成29年度 実証実験箇所 位置図







バスタイプ

乗用車タイプ

①株式会社ディー・エヌ・エー



「レベル4」(専用空間)

「車両自律型」技術

GPS、IMUにより自車位置を 特定し、規定のルートを走行 (点群データを事前取得)

定員: 6人(着席)

(立席含め10名程度)

速度: 10km/h程度

(最大:40km/h)

③ヤマハ発動機株式会社



「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道))

「路車連携型」技術

埋設された電磁誘導線からの 磁力を感知して、既定ルートを 走行

定員: 7人

速度: 自動時~12km/h 程度

手動時 20 km/h未満

②先進モビリティ株式会社



「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道))

「路車連携型」技術

GPSと磁気マーカ及びジャイロセンサにより自車位置を特定して、既定のルートを走行

定員: 20人

速度: 35 km/h 程度

(最大40 km/h)

GPS: Global Positioning System, 全地球測位システム

IMU: Inertial Measurement Unit. 慣性計測装置

④アイサンテクノロジー株式会社[今回使用]



「レベル4」(専用空間) + 「レベル2」(混在交通(公道))

「車両自律型」技術

事前に作製した高精度3次元 地図を用い、LiDAR(光を用い たレーダー)で周囲を 検知し ながら規定ルートを走行

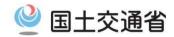
定員: 4人

速度: 40km/h 程度

(最大50 km/h)

※速度は走行する道路に応じた制限速度に適応

道の駅「赤来高原」自動運転実証実験ルート (走行延長約5.7km)





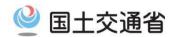
道の駅「赤来高原」における主な検証項目



【使用車両】: アイサンテクノロジー乗用車型 [混在区間+専用区間] ※専用区間は運転手不在(ただし緊急対応用に係員は乗車)

- ・ 事前に作成された高精度3次元地図を用い、あらかじめプログラムされたルートを、LíDÁR(光を用いたレーダー) を用いて周囲の環境を検知しながら走行。
- プログラムされたルートから外れた場合、又は障害物を検知した場合は減速・停止(障害物等の回避は不可)。

_	
項目	実験において検証する内容
①道路·交通	〇相互に円滑な通行のための道路構造の要件〇自動運転に必要となる道路の管理水準・後続車の追い越しを考慮した幅員・特に厳しい道路勾配(+18%~-16%)・待避所、停留所の設置・狭小幅員・歩行者、自転車との分離方法・植栽の繁茂
②地域環境	〇降雨等による、L i DARの検知能力
③コスト	○車両の維持管理コスト
4社会受容性	〇自動運転技術への信頼性、乗り心地
⑤地域への 効果	○集落⇔道の駅への貨客混載等による配送実験・集荷場から道の駅への農作物(りんご、野菜等)の配送・道の駅への宅配便の集荷○高齢者等の外出を促す実験・病院への通院における利用・既存バス路線への乗り継ぎ・病院への通院における利用〇観光面での活用実験〇島根大学との連携・観光資源(赤名宿)への観光客の輸送・自動運転を活用した地域活性化の研究



●高齢化が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」等を拠点とした 自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装する。

